

## 里山の保全・継承・発展

万福寺地区(新百合山手)の緑は、季節感豊かな「里山」として人々の生活と深いかかわりを持ちながら親しまれてきました。このような里山の自然は、人々によって手入れされることで、様々な動植物が新たに生息する環境を産み出し、そして緑自身がまた豊かになっていくというサイクルを持ちながら存在しています。計画・整備に際しては、こうした「人々の生活」と「里山」との密接な関係性を保全しながら、その関係性を将来へと継承していくことをめざしました。それにより、新たな生活の場「新百合山手」に住まう人々が再び里山に親しんでいくことで、将来にわたって緑が豊かでありつづけられることをめざしています。

### 新百合山手・公園管理運営協議会の設立(平成19年10月27日設立)

新しく生まれ変わった街の緑を、将来にわたって担保する仕組みを創ることは、私たち組合の必須の課題でした。そのため、新しい街のコミュニティ育成と、街の緑に親しみその維持管理手法を居住者に教授することを目的として、合計3回、「新百合山手のまちづくり・緑とコミュニティフェア」を開催いたしました。そのイベントを通し、約90名のボランティアの方を集めることができました。その方達や一部居住者により、緑の維持管理を行う「新百合山手・公園管理運営協議会」を設立、今後地区内の緑の維持管理を居住者達の手で行っていくことが可能となりました。

## 地区の約25%が保存・復元・修景の緑に

里山の保全・継承・発展を目指すため、地区の約1/4を公園・緑地として緑化しました。その中には、「復元の緑」「復元の緑」「修景の緑」と位置づけられた緑を配しています。特に「復元の緑」においては、地区内の既存樹の種苗(ポット苗)を約15,000本育成した後、再び地区内へ植栽しています。

### 復元の緑

「里山」景観を新しく創出する緑

### 保存の緑

「里山」景観の保全・育成を図る緑

### 修景の緑

既存の樹林地と一体となったまちづくりの緑



1号緑地(その2)の様子(雑木林を背景に生長するポット苗/平成17年撮影)

## 【緑の整備方針図】

